

中近世風俗画の高精細デジタル画像化と絵画史料学的研究

黒田 日出男 (立正大学 文学部 教授)

【概要】

本科研は、我が国に大量に伝存している絵巻・屏風絵などの大型絵画作品の研究を、全く新しい研究水準・研究環境で行おうとするものである。そのために第一に、撮影・研究を許可された大型絵画史料については、できる限り撮影することにし、それらを高精細デジタル画像化していく。第二に、本科研の前提となる「第二定型洛中洛外図屏風の総合的研究」において開発した、高精細デジタル画像データベースのための「ピクシヨナリー」について、より汎用性を高めるなどの改良を行なう。第三に、高精細デジタル画像化して「画像史料研究用プラットフォーム」に組み込んだ絵画史料については、幾つかの研究グループを組み、高精細デジタル画像データベースとするための分析・読解・記述を遂行していく。そして第四に、その研究成果は、シンポジウム開催や出版によって学界に提供すると共に、歴史博物館や美術館・歴史民俗資料館などで広く公開し、本研究がより広く、国民にとって意義あるものとなるように努めたいと考えている。

【期待される成果】

本研究の遂行によって、第一に、絵巻・屏風絵などの大型の絵画史料を高精細デジタル画像化して研究・読解することが当然視されるようになり、日本史のみならず建築史・美術史・宗教史・国文学などの諸学に、絵画史料研究の新たな環境・条件を生み出すことになる。同時にそれら絵画史料の保存への配慮も深まるだろう。第二に、史料学の一分野として発展してきた絵画史料学を、新たな研究水準へ押し上げることができる。そして第三に、その研究成果は、たんに学界に提供されるだけでなく、博物館・美術館・歴史民俗資料館などでの展示等に生かされ得る。それが実現すれば、市民の視覚経験のあり方を変えていく可能性を有していると思われる。

【関連の深い論文・著書】

黒田 日出男 『絵画史料で歴史を読む』筑摩書房、2004年
同 『増補 姿としぐさの中世史』平凡社、2002年

【研究期間】 平成 17 ~ 21 年度

【研究経費】 76,800,000 円

【ホームページ】 な し